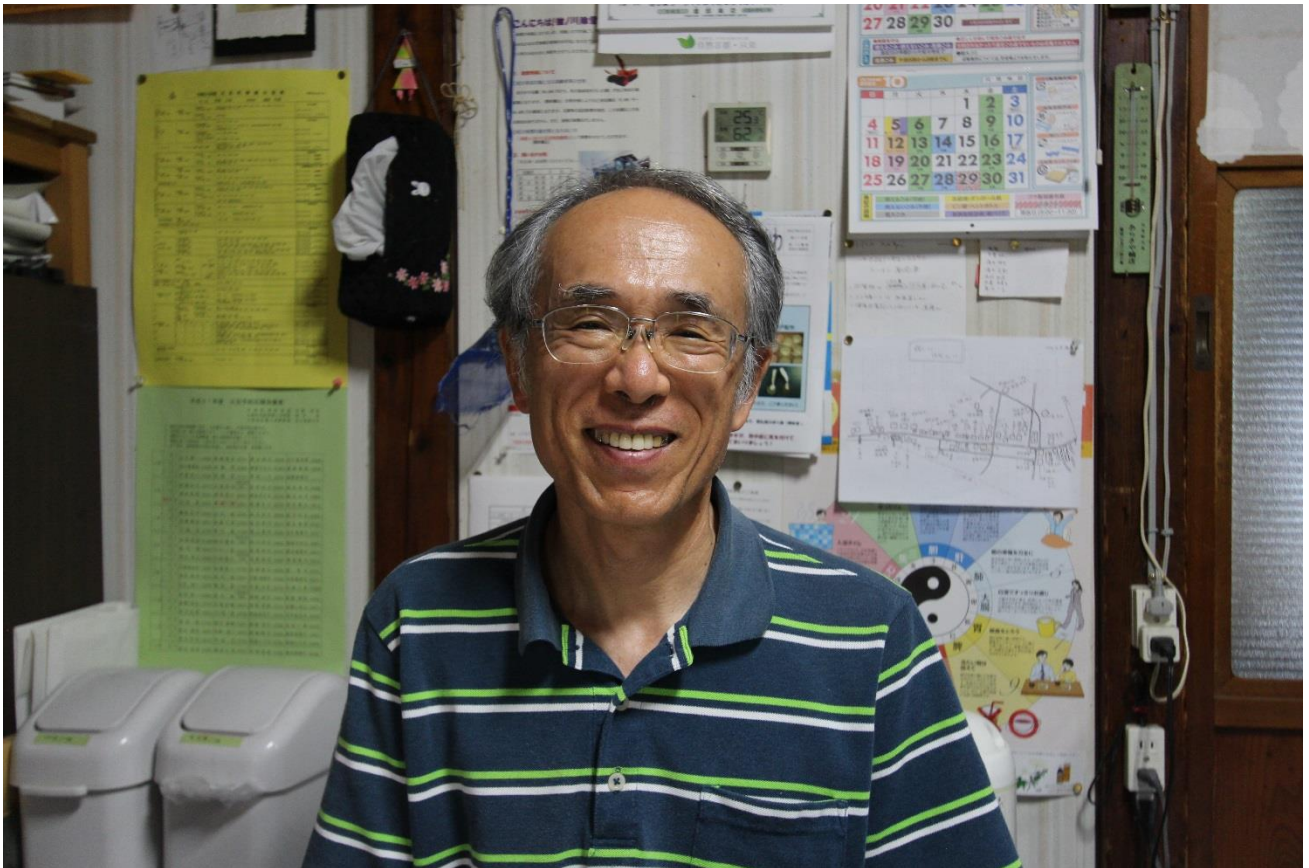


「只見 移住物語」

二地域居住者

【移住者のご紹介】

- ・お名前：高原 豊様（64歳）
- ・ご家族：郁子様（妻 62歳 伊達市）、実母（89歳 伊達市）、長男（独立 36歳 東京）、
長女（独立 33歳 福島）、次男（30歳 只見町）
- ・いつ：2009年（平成21年）4月
- ・どこから：福島県 伊達市
- ・どこへ：宮前 町営教員住宅、現在 館ノ川 自宅
- ・いましていること：薬草栽培（芍薬 他）・自然ガイド
- ・まえにしていたこと：福島県庁 職員



ご自宅の居間にて撮影

【始まり】【準備】

福島県立医大（福島市）の事務局 勤務からお話しましょう。2006年（平成18年）から2009年（平成21年）福島県立医大（福島市）の事務局で働いていました。朝6:00に起床し、7:00のバスに乗り、医大に行く。忙しい時は、帰宅が11:00頃と言った生活をしていました。県職員って結構働いてしまうのですね。時には徹夜することもありました。19:00前に帰ったことはありませんでした。いま思えばハードな生活をしていたと思います。事務局では国際交流といった企画に関する仕事や、大学評価の取りまとめをしていました。

福島県立医大 事務局の勤務期間は大体3年間なので、次の異動先希望を出すことになりました。異動先に「福島」とか別なところの名前を書いても通らないことは知っていました。友人から「南会津って書けばすぐ通るよ」と聞いていたので、自然がいっぱいだからいいだろうと希望を出しました。「南会津」と希望を出したら、なんと即 只見で決まりました。

話は少し脇に入るかもしれませんが、大学での私の専攻は生物学でした。私は、生物学専攻で県事務職員になった変わり者です。生物学を選ぶと就職するところがありませんでした。教員とか、他には研究員もありますが、当時は不況下で研究員の職もありませんでした。学部を卒業してそのまま大学院へ進学、修士号を取りました。大学院の専攻は「環境科学」、学際的な分野で経済学も学びました。そして一般職として県庁に入りました。県庁では自然保護関係の仕事もしたことがあります。

話を戻して、2009年（平成21年）只見高校 事務長として只見に赴任しました。只見に来てみると水は美味しいし、空気もいい。伊達も水は美味しいし、空気もいいと思っていましたが、只見に来てみるとまた一味違いました。学生時代 ワンダーフォーゲル部において山歩きばかりしていて、社会人になってからも年に2~3回山登りしていましたが、ここにいると山に行きたいとは思わないのです。山の上に住んでいるみたいです。「ここはいいなあ。」と思いました。

もともと自然が好きで、只見にはコウモリ フェスティバル（2006年）とか、第二回ブナサミット（2008年）の時に訪れていました。4月に赴任してきて、5月に、地元の「只見の自然に学ぶ会」主催の探鳥会に参加しました。そして、そのまま「只見の自然に学ぶ会」に入りました。そこで、その後 私の暮らし、生き方に大きな影響を与えることになるKさんや、Iさんと出会い、交流が始まりました。

最初の住まいは只見町 教員アパートでした。冬期間は除雪車が出ると、教員アパートに住んでいる人がみんな朝早く出て、車庫の前を雪堀りするのです。私は雪が好きで、雪は苦になりません。が、実は寒がりで、さすがに雪堀りも1か月間すると疲れました。とは言え夏も夏バテもしますけど。

【家族】

私が只見に赴任してから、妻は私の様子を時々見に来てくれました。妻は、図書館司書の資格を持っていて、本好きで、自然も好きです。一緒に山登りや野山を歩いたりしていました。妻も只見がすぐ好きになり『そのうち只見に住みたいね。退職したら伊達と只見を行ったり来たりしようか』と言った話をするようになりました。

ほぼ3年で転勤となる、只見を出るということは、おおよそ過去のパターンでわかっていました。前任者も、ほぼ皆さんが3年、3年で動いていたからです。只見に来て3年目の時に、この家（館ノ川）を借りました。「只見の自然に学ぶ会」でお友達になったKさんの家に遊びに行こうと通りかかった時に、この家を見つけました。「この家 空いているなあ」と思い、「あそこ借りたい」と声をあげました。どこかにいいところ（住まい）がないかと探していた時でもあり、まさにKさんと同じ集落だし、Kさんに仲立ちをしてもらい借りることが出来ました。

この家は、伊南川の縁にあり、景色のよいところです。でも（台風や豪雨で）水が上がってきたときは怖いので、いま国道わきに引っ越すことを考えています。この前は、水がすぐそばまで来たのです。用水路の底が、ひたひたになるくらい水が上がってきました。引っ越し先は国道の向かい側のパン屋さんの数軒先にある空き家です。空き家バンクに登録されたので、いま必要な手続きを進めています。この家（いま住んでいる家）は、購入したので、農作業用の倉庫として使うことを考えています。実はタップダンスをしているので、その練習場としても使いたいなと考えています。

只見高校から異動した後は、伊達市の県立 梁川高校に2年間、同じく県立 保原高校に2年間勤務して、定年を迎えました。県庁での勤務年数は「35年」となっていました。最後の4年間は伊達市の自宅から勤務先へ通勤していました。只見へは、土日とか休みの時に来て遊んでいました。娘も時々一緒に遊びに来ていて、ご縁があって隣町へ嫁ぎました。いまは孫を連れて時々遊びに来てくれます。孫は女の子で、実にかわいい。冬は11月下旬ごろ伊達市に戻り、4月上旬から中旬に只見に戻る生活をしています。

只見に住むことに関して不安に感じたことはありません。気がかりは高齢な両親のことでしたが、当時は2人ともに元気でしたので大丈夫だと思いました。父親は、私が退職してすぐに他界しました。母を自宅で介護しているので、冬の間 私が伊達に戻った時は母の昼食を作ったりしています。妻はパートとして市立図書館に勤めていますので、妻が勤務でいない時にだけです。

またボランティアで、福島大学の植物学の研究室へ行って植物標本の整理をしています。新しく出来た植物標本を配架する作業です。植物の分類に従って、並んでいる棚の中から同じ種類のものを探して、そこに置いたり、分類が変わったものの並べ替えとかをしています。

ます。植物標本の図書館みたいなことですね。

大学での私の専攻は「生物学」だとお話ししましたが、研究テーマは水質、水の富栄養化でした。大学が茨城にありましたので霞ヶ浦の富栄養化に関連して、例えば「窒素とカリウムとかがいっぱい入っている」といったようなことを研究しました。水質研究、分析って、専門の器具がないとできないのです。機械も高いし、個人ではできないのですが、フィールドワークなら道具がなくても出来ます。現場を歩いて「ここには何がありました」、「ここには何がありました」と言って標本を採って歩くのが楽しいです。

それに山歩きが出来るのでいい。分類、研究は先生にお任せして、私はこの地域で採集したサンプルを研究室へ納めたり、標本制作をしています。実は只見周辺の標本はあまりないのです。福島近辺や会津若松近辺の標本とか、中通りの標本は多いのですが、只見周辺の標本は少ないそうです。だから先生には喜んでもらっています。



伊南川ほとりにあるご自宅（背景の山と自宅との間を伊南川が流れている）

【現在】

町おこしにならないかと思い Kさんと芍薬栽培を始めました。ダム工事では人口が増え良かったのですが、やはり一過性で工事が終わればそれでおしまいになってしまいました。人口は減るばかりで、何か新しい産業を作らなければいけないと思ったのです。

「新しい産業を作らなければ」この想いに至るきっかけは、只見高校で勤務していたときの体験にあります。町に働き場所がなく、只見高校を卒業した生徒が、町を出て行くのを見ました。南郷トマトのようなしっかりした地場産業があれば、高校を卒業した子供たちは生まれ育った町を離れることなく、ここで生活して行けるのにと、切実に思ったのです。

たまたま私の友人に、梁川で漢方薬を取り扱っている人がいて、彼が言うのには『中国で漢方薬を消費する量が多くなって、日本に品質の良い漢方薬が入ってこなくなると漢方薬の価格がどんどん上がっている。だから日本でも生産しなければならなくなるから、お前やらないか』って言われ、「薬草で町おこしできないだろうか」というアイディアに至りました。

2年前に「芍薬栽培始めました」というキックオフ セミナーをやりました。偶然 私たちが作っている芍薬について、会津医療センターで漢方医学をされる先生の知るところとなり「薬の地産地消」を目指して朝鮮ニンジン^{ニンジ}を会津若松周辺で作っていることもあり、芍薬を作っているなら只見の芍薬を使いましょうという話しに展開したのです。

福島産なので残留農薬だけでなく放射能も計測しています。放射能は全く問題ないのは明らかでも、やはり風評被害みたいなものがあり使ってくれない、売れないかもしれない。それなら地元 福島県内で消費したら「いいだろう」と、これが「薬の地産地消」と結びついて、会津医療センターに納めているところです。

薬草栽培は、契約栽培というやり方をしています。^{とちもとてんかいどう} * 栃本天海堂と言う生薬問屋から種苗を購入して、育てて出荷するシステムです。薬草栽培って育成はできたとしても、販路を探す事が難しい事業なのです。「これやったらお金になる」って言われて育てても、販路は自分で探して下さいでは、難しいです。また薬草は品種によって薬効成分の含有量が低いものもあるので、生薬問屋としてもやはり薬効が十分にあると判っている株でないと買いません。だから自分のところで育てた品種の種とか苗とかを育ててもらって、それを買取るシステムが存在しているのです。個人的（小規模）に育てて売るのは全然関係はありませんが、大々的にやって使うとなると組織的な枠組みに組み込まれてゆくこととなります。大きな会社、例えばツムラとかが構築したシステムに組み込まれるのです。

*株式会社 栃本天海堂 本社は大阪市北区。漢方・漢方薬の輸入、栽培、製造、販売までを一貫して行うメーカー。

*当帰(トウキ)という薬草があります。当帰は主に女性用の漢方薬に沢山入っています。2年で収穫できるのですが、過去に作ったのはいいけれど、売り先がなかったという事例がありました。仲介していた会社がつぶれてしまって、売り先が無くなってしまったようです。田島でもやったけど、それは完全に売り先が見つからなかったらしいです。薬効成分が低いかなんかで、買い取ってもらえなかったとか。只見でもその昔、芍薬の花栽培をしていた人も、根を漢方薬用に出していた人もいたと聞いたことがあります。

*トウキは、セリ科シシウド属の多年草。根を薬用とする。漢方薬として冷え性、貧血など婦人病に用いられる。

芍薬は植え付けから出荷までに5年かかります。漢方薬としての芍薬の効果は、例えば

引き攣りひきつりとか胃痙攣いけいれんの痛み止めとか、筋肉の痙攣きんにくけいれんなどに効果があると言われています。

葛根湯かつこんとうとか有名なものは芍薬甘草湯しゃくやくかんぞうとうがあります。お腹が痛い時とか、色々な痛みに効くと言われています。漢方薬は単体で使うのはまずなく、経験的に副作用を抑えるようにほかの薬と混ぜて使っています。いま挙げた「葛根湯」って葛の根だけではないのです。他にもキノコとか芍薬が入っています。いま芍薬を育てているメンバーは私を含めて8名です。

*「葛根湯」は、かぜの初期などの頭痛、発熱、寒気がするといった場合に有効な漢方薬。

【変化】

移住して良かったと感じる事は、定年後に時間を持て余すことがないというのが、とても素敵な事だと思います。芍薬の作付面積は約25a(1a=100㎡)で、日々除草に追われています。芍薬の育成管理は除草が主な仕事なのです。芍薬全体によく日が当たるよう除草をして、根を太く大きく成長させます。水はほとんど与えません。6月頃よほど乾燥しているときに苗に水を与えます。

やってみると芍薬栽培は手間がかかる割には、買い取り単価が安いので利益が薄いように思います。人件費に見合う見返りがまだ出ないので、これでは人に勧められないと思っています。生薬問屋に言わせると「農薬を使って大規模にやり、出荷量を増やせば、ペイするはず」と言うのですが、メンバーの「薬草に農薬は使いたくない」と言う想いもあり、悩ましいところです。

【変化】

移住して変わったのではなく、定年になる7年前にはもう只見に来ることを考えていて、5年前には「芍薬を作りながら、自然ガイドをする」と決めていたので、そのままです。

現役時代 子供たちに「只見に行って山歩きや、雪掘り、スキーしよう」って連れてきていました。歩くスキーや山歩きが好きで、子供が小さい時から連れて遊んでいましたので、「ここは、やりたいことはなんでもできるところ（遊び放題）だぞ」って、子供たちも、自然が、只見が好きになっていったと思います。

そうこうしているうちに娘は縁があって隣町に嫁ぎ、暮らすようになりました。これは大きく影響しています。娘が隣町に居るから、妻は「じゃあ、只見に住もうか」ってみたいなのになっています。将来は伊達の家を整理して、こちらに来ることになると思います。

【将来】

年金もあり食べては行けます。少しですが芍薬の収入もあり暮らしていけると思います。芍薬栽培の労働対価は目下のところゼロですが、マイナスにはなりません。

将来に向けて大きな不安はありませんが、唯一気がかりなことは芍薬栽培メンバーの高齢化です。主要メンバーのKさんは体力的にしんどくなって、体が動かなくなったら自分は栽培を辞めると、普段の言動からは想像できないような事を言いだしています。確かに、芍薬栽培は体に負担のかかる作業が多いため、少しずつ体が思うように動かなくなっていくと感じとれば、あと5年で辞めるか、10年で辞めようかと口に出るのでしょう。そうになったら「自分も止めようかな」と、一瞬 考えることもあります。

生薬問屋からは「何人か組んで芍薬栽培をして下さい。一人栽培では契約をしません」と言われています。何人か組んでいないと安定した出荷が出来ないため、契約できないという理由です。メンバーが抜けて行けば、特に核となるメンバーが抜けてしまうと、やはり心細くなります。他にもメンバーは残りますが、それでも只見で芍薬栽培をしているのは私たちグループだけです。出荷量が減ると、売上に対する輸送料の比率が上がり、手元に残る利益はさらに下がってしまいます。兵庫県の指定された工場まで芍薬の根を送らなくてはならないのですが、その運賃が約10万円かかるのです。

私は薬草で町おこしと考え芍薬栽培を始めました。繰り返しになりますが、その理由は、高校を卒業した生徒の働き場所がなく、町の外へ出て行く姿を見て、生まれ育った町を離れずに、子供たちがここで生活していける手段を作らなければならない、これはゆるがせにできないと思ったからです。いろいろと勉強会もやりました。Kさんが主催する「のらさん（野良で散歩しよう）」というグループで、小さいお子さんを連れた若いお母さん達が加わり勉強会をしました。民宿、旅館で薬膳を出してもらい、薬膳に使う材料を提供（地産地消）できれば良い、こんなアイデアも考えています。只見は山を歩いていると薬草みたくなものが見つかる土地なのです。そのような薬草の山採り（自生している薬草を採取する）でもいいのかとも思っています。

体が続く限り、やり続けようと思っています。

芍薬より手間がかからず、より利益が上がる薬草がないかなと考え、ある薬草栽培に挑戦しています。これなら体力が衰えても育成出来そうなので、この薬草に期待しているところです。友人の漢方薬屋から株を分けてもらって始めました。友人が「自分のところでは結実しないが、只見ではよく出来ている」と言われました。もともと寒い地域のもので、北海道にもあるので、ここでも大丈夫です。雪の影響がどうなのかなと思っています。蔓性なので本当は葡萄の様に棚にしたいのですが、雪が積もるから棚にはできない。平棚を作れないので、どう栽培するか考えています。

【不便】

只見に最初に来た時に、お店が19時にしまってしまうのですごく困りました。朝、出勤の時には店が開いておらず、只見高校が終わってからだと18時を過ぎてしまうので買い物に行くのが大変でした。ヤマザキショップは22時まで開いていましたが、生鮮食料品はあまり扱っていませんでしたので、最初は買い物が不便でしたね。

でも、慣れてしまうと、ブイチェーンにしかないものしか買えませんから、かえって迷わなくていいかと思いはじめました。(前に買った)同じものでも良いか、みたいなことですね。田島にも買い物に行きましたが、今はほとんど行きません。たまに売っていないもの、例えば草刈り機の刃を買いたいときに行くだけです。伊達に行く途中に若松で買うこともあります。後はAmazonとか通販で買えますから、いまは全然不便は感じていません。私は使っていませんが生協は便利だと思います。

【印象】

ここに来てびっくりしたのは本屋さんがあったこと。^{こめや}米屋さんです。びっくりしました。伊達の近くに本屋が無くなってしまったのに、ここには本屋さんがある。だから只見高校に勤めていたころは、本をよく注文させてもらいました。

お店が早く閉まり、遅く開くのはびっくりしました。只見高校時代 コンビニがないからお弁当をどうしようかって悩みました。「ちょっと、ブイチェーンまでお弁当を買いに行ってくる」って職場を抜けて買いに行きました。ヤマザキショップにもよく行きました。町の学生寮(現 奥会津学習センター)が生徒にお弁当を届ける際に、ついでに学校の先生にも届けますよって言うてくれたので、よく利用していました。あれはとても助かりました。

【健康】

私はタバコもお酒もしません。やはり睡眠は重要だと思います。きちんと眠ることが大切だと思います。10時位に寝て6時位に起きるようにしています。ところが10時に寝ようと思っても、なかなか寝られない。11時位になってしまうのです。また5時に目が覚めるようになって、11時に寝て翌朝5時起きとなると昼間きついんですね。県職員時代の夜遅くまで働く癖が付いて抜けないのかもしれませんが。

【アドバイス】

二地域居住される方へのアドバイスですが、あまり遠いところへ通うのは大変だと思います。本拠地とする場所から、通う所が遠いと大変でしょう。私の場合、伊達から只見まで車で約4時間かかります。高速を使っても下道を通ってもあまり変わりありません。

仕事で来ていて、ここがいいなって思って、チャッチャカ、チャッチャカと定年後はこうしようと生活プランを決めた事が良かったのかもしれませんが。定年後の準備は早く始めた方が良くって言われていましたが、やはりそうでしたね。

【生活】

地元の人と積極的に仲良くなると良いと思います。挨拶は大切ですね。自分は知らなくても、地元の方は「あの人は今度 高校に来た人だ」って判っています。こちらに来てやはり適切な助言、サポートをしてくれる方に出会えたことは、本当に幸運だと思っています。妻も『Kさんがいなければ、ここにはいない』と言っています。『いなくなったらどうしよう』とも、頼りにしていると言うことの現れです。

只見の人は人懐っこいです。只見の人は距離を置かずに、すぐに受け入れてくれますから。伊達、福島だと、最初少し距離を置いた話し方をされますが、ここではゼロから始まるのです。だから、自分から距離を置かないで付き合いと、すぐに受け入れてくれます。

2020年9月15日 館ノ川 ご自宅 居間にてインタビュー
インタビュアー 移住コーディネーター 生天目 博